

<文部科学大臣賞>秋田県大仙市立大曲南(おおまがりみなみ)中学校

最優秀校4校決定

食環境協 主催事業 第23回環境美化教育

<連載①>

市内を流れる雄物川と横手川の合流地点に位置する同校。田畑が広がる恵まれた環境の下で、地域に根差した活動を行っている。とりわけ活発なのが、保護者を行うアルミ缶・古紙回収だ。生徒が事前に告知のチラシを校区の各戸に配布し、回収当日は高齢者宅に出向き、率先して回収をお手伝い。

また、小学校と共同で取り組む道路周辺の清掃活動も盛んで、生徒は母

校の小学校を訪れ、当日の段取りなどを説明、終始旗振りに徹する。ほかに、近隣の公園で住民とともに清掃を行うなど、美化活動が貴重な交流の場となっている。

こうした取り組みがベイスとなり、ユネスコスクールに認定されてからは、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を重視。「食育」「エネルギー教育」「国際教育」をテーマに活動を深

化させている。食育では、給食残さで作った肥料を使って野菜栽培をする過程で、地域の主産業が農業であることを再認識した。

佐藤美音(みのん)さん(中3)は、「食べ残したものが肥料になり、野菜栽培ができる取り組み

をもちと発信していきたい」と意気込む。さらに、同校では環境問題を扱った講演会を開催。世界を舞台に活躍する講師の報告を受けて、その生の声を生かそうと、生徒は他国で起きている問題を自分事として捉えるようになった。2

022年度は、気候変動の下で起きているキリバスの現状をテーマにした講演会を実施。その後、キリバスの中学生とオンライン交流を続ける中で、自分たちの地域を流れる川が汚いと、世界の海にも悪影響を与えることを痛感した。

住民の佐藤友美(ゆみ)さんは、「様々な経験を積み重ね、世界を知る講師の話聞いた生徒は、いろんな角度から物事を見ることができています。地域を大いに巻き込んで欲しい」と期待する。Think Globally, Act Locallyの精神が胸に刻まれている。

2022年度は、気候変動の下で起きているキリバスの現状をテーマにした講演会を実施。その後、キリバスの中学生とオンライン交流を続ける中で、自分たちの地域を流れる川が汚いと、世界の海にも悪影響を与えることを痛感した。



給食残さの肥料で作った野菜を使って料理に挑戦



世界の現状に触れ、身近な地域環境保全に尽くす生徒

身近な環境保全で世界を笑顔に

食べ残しから野菜が育つ活動発信

清涼飲料やビールなどの飲料業界6団体で構成する公益社団法人食品容器環境美化協会(略称「食環協」、会長 那須俊一氏)が、地域と協働で環境美化活動を行う小・中学校などを支援しようと、2000年に開始した環境美化教育優良校等表彰事業。230年に開始した環境美化教育優良校等表彰事業。230回を数える本年度は、全国の都道府県より推薦され

た小・中学校等20校の中から、最優秀校4校が決定した。児童生徒が主体的に取り組む優れた活動をシリーズで紹介する。初回は、文部科学大臣賞を受賞した秋田県大仙市立大曲南中学校だ。第23回環境美化教育優良校等表彰式は1月27日15時半から、浅草ビューホテル(東京都台東区)で開催される。

022年度は、気候変動の下で起きているキリバスの現状をテーマにした講演会を実施。その後、キリバスの中学生とオンライン交流を続ける中で、自分たちの地域を流れる川が汚いと、世界の海にも悪影響を与えることを痛感した。

住民の佐藤友美(ゆみ)さんは、「様々な経験を積み重ね、世界を知る講師の話聞いた生徒は、いろんな角度から物事を見ることができています。地域を大いに巻き込んで欲しい」と期待する。Think Globally, Act Locallyの精神が胸に刻まれている。

恵方巻予約 前年にコ

若手社員に

イオンリテール東海カンパニー

イオンリテール東海カンパニーは、恒例の恵方巻商戦に今年も力を入れる。18日にイオンモール熱田で行われたお披露目会では、高橋幹夫食品部長が「予約はコロナ禍で増加した昨年と同じ程度で進んでいる。今年は伝統と革新をテーマに、1万円の恵方巻から1万円も豊富に用意し、こだわりのプライドフィッシュを使ったものも用意した。ぜひ味わってもらいたい」と話した。

恵方巻をPRする高橋幹夫食品部長



今年度のラインアップでは、定番となっている「銀座 鮎よしたけ監修」で好評の「極太巻」(1本1千380円、ハーフ698円)、

商品として鮎よしたけ監修の「極太巻」(1本1千380円、ハーフ698円)、